

第2回 横浜市障害者スポーツ文化センター指定管理者選定評価委員会 会議録	
日 時	平成27年7月9日(木) 午後1時～午後5時
開催場所	障害者スポーツ文化センター横浜ラポール大会議室
出席者	小長谷委員、上甲委員、石河委員、紅林委員、川井委員、北川委員、森委員
欠席者	鈴木委員
開催形態	公開（傍聴者5人）
議 題	<ol style="list-style-type: none"> 1 申請状況について 2 会議の公開について 3 評価方法等について 4 申請団体によるプレゼンテーション及びヒアリングについて 5 討議及び採点 6 その他
決定事項	選定評価委員会による評価の結果、社会福祉法人横浜市リハビリテーション事業団から提出された指定申請書類について、選定の基準を上回る評価がなされた。
議 事	<ol style="list-style-type: none"> 1 申請状況について 事務局より申請関係書類等提出の経緯について説明。 2 会議の公開について 事務局より会議の公開及び会議録等の公表について説明。 3 評価方法等について 事務局より申請関係書類の評価方法及び最低基準等を説明。 4 申請団体によるプレゼンテーション及びヒアリングについて 主な質疑は以下の通り 5 討議及び採点 各委員が改めて採点。 <p>【主な質疑】</p> <p>委 員：事業計画において精神障害に対する対応はどのように考えているか。 申請団体：スポーツの分野においては精神障害者の利用が多くなっている。地域の生活支援センターでショートテニスを行っていたこともあるので、各区に広げることができればと考えている。また、陶芸や料理教室などは障害の種別を問わず、精神障害の方にも参加頂ける内容になっている。今後は団体との連携も考えている。</p> <p>委 員：防災訓練については施設のアルバイトや利用者も含めて実施した方が良いのではないか。 申請団体：毎回ではないが利用者も交えて実施することがある。また、マニュアルの点検も随時実施し、その際スポーツ指導員やアルバイトとシミュレーションを行っている。</p> <p>委 員：地下の浸水については防災のマニュアルを変えたのか。 申請団体：職員を日産スタジアムまで派遣し、水位を無線で確認しながら防災のレベルごとに対応するようマニュアルを改訂した。</p> <p>委 員：事業計画書におけるスポーツ指導者の育成の3層構造とは一般的なもののなのか。具体的にはスポーツ指導でどのような実績があるのか。</p>

また、新規の事業としているものは具体的にどのようなものか。

申請団体：3層構造はラポールが今までの経験から構造化したもので一般的なものではない。現在まで実績としてスポーツボランティアの登録は数百名いるが、実働は70名程度のため、これから現場の要求に応えることができるボランティアの養成が必要であり、今後はボランティア層を100名程度に増やし、指導者層も現在20名程度だが倍増していくことが必要と考えている。

新規としているのは主に既存の大会の運営効率化を図る点にある。今までは料金の徴収を当日に行っていたが非効率であったため効率化する。また、その他の新規事業として、小学校との連携を考えているが、これは障害者の大会に健常者が入っていくことを念頭に行うことで障害理解が進むと考えている。

さらに全国大会に先駆けて重度の障害者に対応した種目をハマピックに取り入れようと考えている。

委員：聴覚障害者情報提供施設の要約筆記養成のライブラリー事業についてはろう者とこども向けばかりであり、中途失聴者向けではない。

また、聴覚障害者相談事業について、ラポールは利用者が行きにくい場所にあるので、そういった利用しにくい人に対する相談についてどう考えるか。

申請団体：ライブラリーについては東京の聴覚障害者情報文化センターで作成され、ラポールに配られている。

指摘の通り幼児向け等が多いが、独自に作成していくものについては希望に沿ったものを置いていきたい。

相談事業については公共施設において出張の相談も行っているので利用して頂きたい。

委員：財務書類の退職給付引当金の不足している金額についてどう考えるか
また、修繕計画について非常用放送設備等が計画上あるが、非常時はいつ来るかわからない。早急にやるべきではないか。年次計画を立てるべきだ。

申請団体：退職給付引当金については同額にしていく方向で調整をしている。

また、修繕計画の非常用設備については、毎年専門の業者が点検しており1、2年で壊れるわけではないが、改修計画の上位として横浜市と調整していく。

委員：知的障害者の利用者はどのようにスポーツをしたらよいかかわからない方も多いので、声掛けをするなどしてラポールに来てよかったと思うような施設にしてほしい。

健常の利用者が多いために障害のある利用者が使いづらいということにならないようにしてほしい。

委員：情報提供施設の実績は派遣が100%となっているが、1～2週間先の通訳派遣だけである。本来、利用したい者にとってはコミュニケーションをいつでもどこでもしたいと思っている。

そういった希望とギャップがあることを理解しているか。

申請団体：いつでもどこでもコミュニケーションを取りたいということ、また現

	<p>状は最低限のことしかできていないということは認識している。現在の事業の中では最大限柔軟にやっているが、不足している部分については、頑張っていきたい。なお、予約をしていない場合でも、基本的には断っていない。</p> <p>委員：個人情報の取り扱いについて、最近は標的型攻撃メールも多いが、データベースを扱っているラポールはどのような対策を実施しているか。</p> <p>申請団体：データベースは外部と接続がない、館内みのネットワークとなっている。100%流出はないと考えている。</p> <p>以上で質疑応答終了し、申請者及び傍聴人退出。</p>
<p>資料 ・ 特記事項</p>	<p>1 主な配付資料</p> <p>(1) 委員会次第</p> <p>(2) 「障害者スポーツ文化センター横浜ラポール」指定管理者事前評価表</p> <p>(3) 「障害者スポーツ文化センター横浜ラポール」指定管理者評価表（最終）</p> <p>2 特記事項</p> <p>第3回委員会は8月31日(月) 午前10時～、横浜ラポールで開催予定。</p>